

## 坂 静雄博士の思い出

産 本 眞 作\*

昨年（1989年）10月13日、安らかに永眠された恩師、坂静雄博士の存在は私にとってあまりにも大きすぎ、まとまらぬまま京都大学の学生時代から昨年までの先生と私にかかわる思い出の一面をご紹介します。追悼の言葉とさせていただきます。なお、内容に多少の思い違いもあるかも知れませんが、お許し頂きたいと思います。

京都大学工学部建築学科教室での先生の学生への接し方は、極めて峻厳という表現が当たっているのではないかと考えます。ご自身は勿論のこと、学生にも手を抜くことは一切許さず、出欠をとる数少ない先生のお1人でした。したがって先生ご自身の講義には遅刻も休講も全くなく、そこで当然のこととして、学生が手を抜いた場合は間違いなく落第か、留年の運命が待ちかまえておりました。

先生から言わせると、著書の「鉄筋コンクリート学教程」を理解したくらいのレベルでは勉強したうちに入らず、学生側の手抜きであると考えられていたようで、国内外の専門雑誌のいくつかに目を通してはじめて勉強したということになるらしいのです。

ちなみに、期末の試験は英語かドイツ語で出題されました。私が受けた試験問題は英語で、ACIジャーナルの論文からの引用ではなかったかと今になって思っております。この厳しさが、実は先生の学生に対する最大の優しさであることに気づいたのは、ずいぶん後になってからです。

卒業に際して、「数名の学生は卒業に値しないが、君達の先輩を見るに、学士の誇りにかけて卒業後にはよく勉強し、一人前になっているので特に今回は認めた。思い当たる者は心して今後は精進するように」とのご発言があり、坂先生のお言葉ゆえに今もって忘れ得ぬ同級生も数多いことと思います。

先生のご紹介によって私が入社した別子建設（現在の住友建設）は、それから3年後の昭和35年、京都大学を退官された先生を顧問としてお迎えし、技術研究所の設立など技術部門の整備拡充と一般技術問題のご指導をお願いすることになりました。

先生が、建築事務所・建設会社・プレハブメーカーなど一業種一社に限ってだけ顧問を引き受けられた



\* Shinsaku SANMOTO :  
住友建設（株）常務取締役

たことを考えると、住友建設も私も実に幸運であったと思います。つまり昨年の10月先生が亡くなられるまでの約30年間、以来ずっとご指導ご鞭撻を賜ることができ、その間先生のご指導によってSWA工法、プレストレストコンクリートを利用した集合住宅や吊屋根構造などを実用化し、プレストレストコンクリートの応用領域を拡大することもできました。

これらの技術は一住友建設にとっただけでなく、わが国のプレストレストコンクリート技術の発展に大きな貢献をもたらした要因であると確信している一人でもあります。

月に一度は必ず会社に来られ、種々の技術問題の指導、最新の研究トピックスなどのご説明を受けましたが、卒業後は私の不勉強には目をつぶってくだされ、懇切丁寧にご指導賜りました。私の一つの相談事に数多くの質問を投げ返され、いい加減の相談事をたしなめられているようで、冷汗をかくことも度々でした。にもかかわらず、私に興味がありそうなテーマはよく覚えておられ、国内外の論文、あるいは先生のご意見などもその都度送って頂いたことなどは、実にありがたい思い出の一つです。

住友建設斎藤会長がプレストレストコンクリート技術の発展を願って設けた公益信託基金の助成および表彰の審査委員長もお願いしておりましたが、どの委員の方々よりも内容をよく吟味され、きめ細かく意見を述べられ、技術面のみならず選考の公平さの大切さも含めて私どもをご指導いただいたことなども、また忘れがたい思い出です。

先生は勤勉にして質素、誠実を旨とされ、自己規制のお強い方であり、またたいへん自然を愛する人でもありました。最近5、6年は私どもにも雑談の機会を与えてくださるようになり、野菜作りの苦心談や花作りの楽しさなど、老後を元気に楽しく過ごす要領まで聞かせてくださいました。

先生の農作業は本格的で、戦争中の代用食料品つまりジャガイモ、カボチャの作り方から始まり、農薬汚染が世間で言われはじめてからは一層力を入れられ、大根、トマト、キュウリまでと、そのレパトリーは大変広いものでした。

農薬を使う代わりに、かの碩学が夜中懐中電灯片手に虫を一匹一匹取る話、つまり「辺りが暗くなって2時間くらい経ったときに虫の一番活躍するときなので、取りやすいのだ」と話しておられたことなど、実にほほえましく思い出します。

また花にいたっては、お話しの中になに種々様々の花の名が登場し、私などにはついていけませんでしたが、花に合った土壌作りの話しなどは、もはや先生は専門の域に達しておられると拝察したものです。今でも柿・桃・葡萄などは千里のお宅の庭に、その季節季節に合わせ、立派な果実を付けているはずです。

先生のお話から推量するに、元気に老後を過ごし長寿を保つ秘訣は、外が明るくなれば起床し、朝食前に庭に出て土いじりとか庭掃除を心掛け、夜10時までには床に入る。そして物事にこだわらず、バランスのとれた栄養をとり、日常生活を規則正しく送り、あまり身分不相応な金品の欲を出さぬことといったお話しであったかと記憶している次第です。

ご専門の学問だけでなく、人、自然への深い思いやりと優しさに溢れる先生でありました。師として、また人生の先輩として長い間ご指導くださった故坂静雄博士のご冥福を心よりお祈りし、先生の遺志をコンクリート技術の発展に、さらには私どもの人生に反映させ、万分の一でも報いたいものと思いつつペンを置きます。

合 掌